

令和3年度第1回山口県県民活動審議会の概要

1 開催日時・場所

令和3年8月11日（水） 13:28～15:00 山口県庁共用第4会議室

2 出席者

委員 速水委員、角田委員、渡邊委員、中川委員、岸田委員、柿沼委員
※ 欠席委員：弘田委員

県（事務局） 神杉環境生活部長、木安県民生活課長、
県民活動推進班 山田班長、宮本主査、花屋主任主事、山本主事
やまぐち県民活動支援センター 伊藤センター長

3 概要

（1）会議概要

ア 令和3年版県民活動白書（案）について

事務局の説明後、白書について委員の意見があった。

→白書（案）については了承。

イ 令和3年度県民活動促進関連事業について

事務局の説明後、事業に関し委員の意見があった。

ウ 意見交換

- ・「若い世代の県民活動団体への参加に向けた取組」について事務局の説明後、意見交換が行われた。

（2）主な意見

◆ ア、イについて

- 「域外パワー活用地域貢献推進事業」のプロボノ活動は、スキルを持った若い世代がボランティアへ参加するきっかけとして有用であり、この事業を促進する必要がある。
- ボランティアに入る動機として、参加者に交通費や弁当などの実費弁償や役割等の負荷があった方が、より参加の促進につながり、継続性も担保される。
- 企業にとって社会貢献は優先度が高いことから、企業と県民活動団体等を結びつける取組が行政に求められる。

◆ ウについて

- 学校の後押しや企業側の評価が、参加の促進につながる。
- コロナ禍で学生のボランティア受け入れを拒否される場合が多くなっている。一方、受入れ可能な子ども食堂などには、多くの学生が集中している。
- 20代から30代は就職、結婚などライフスタイルが劇的に変化しやすいことから、ターゲットに合わせた多様な取組が必要である。